



特別企画『ウマ娘 プリティーダービー × シルク・ホースクラブ』

特集① 『ウマ娘
プリティーダービー』
とは？

『ウマ娘』……。彼女たちは、走るために生まれてきた。ときに数奇で、ときに輝かしい歴史を持つ別世界の名前と共に生まれ、その魂を受け継いで走る……。それが、彼女たちの運命。

この世界に生きるウマ娘の未来のレース結果は、まだ誰にもわからない！

彼女たちは走り続ける。瞳の先にあるゴールだけを目指して……。

『ウマ娘プリティーダービー』（以下、ウマ娘）は実在の競走馬をモチーフにした「ウマ娘」たちが織りなす物語を描くクロスメディアコンテンツです。

ゲームやアニメ、漫画、音楽などさまざまなメディアで作品を展開しています。

2021年にリリースされたゲームは現在2100万ダウンロードを突破し、英語版の配信も決定しています。2024年には初の劇

場版アニメ『ウマ娘プリティーダービー 新時代の扉』も国内外で上映されました。また、週刊ヤングジャンプ（集英社）で連載中の漫画『ウマ娘 シンデレラグレイ』は累計発行部数

650万部を超え、2025年にはTVアニメ化が決定しています。キャラクターを演じる声優が出演するライブイベントも日本各地で開催され、好評を博しています。





劇場版『ウマ娘 プリティーダービー 新時代の扉』より

シンボリルドルフ、オグリキャップ、トウカイテイオー、スペシャルウィーク、ウオッカ、キタサンブラック……『ウマ娘』にはさまざまな世代で活躍した名馬がモチーフのキャラクターたちが登場します。彼女たちは一緒に学園生活を送り、交流し、同じレースに出走することも！そんな夢のような光景を見ることができるのは、『ウマ娘』だからこそ味わえる醍醐味のひとつです。

今でも作品への注目度は高く、地方競馬場や牧場とのコラボイベントには入場を待つ長蛇の列ができ、キャラクターグッズも大人気。作品に新たなウマ娘が登場するたびにSNSでは名前がトレンド入りするほど大きな話題になります。ブラストワンピースの発表時も、瞬く間に「ブラストワンピース」が1位に躍り出ていましたね！

なぜ、『ウマ娘』はこんな人気を誇っているのでしょうか？

ウマ娘は、名馬と同じ名前を持つだけではありません。その外見や衣装には、モチーフ競走馬や勝負服などの特長を取り入れたデザインが採用されています。さらに彼女たちの性格や作中の物語には、実際のレース結果だけではなく、当時のエピソードが細部にも反映されています。

このことが、アニメやゲーム好きだけではなく、往年の競馬ファンからも支持される理由になっているのです。

アニメ・ゲームファンの話題性のほり、トレンドが上がった名馬の名前を見た当時のファンから寄せられた思い出やエピソードをきっかけに、『ウマ娘』ファンが作中の元ネタに気づいたり、競走馬や競馬そのもののファンになったりすることもあ

るとです。たとえば、公式YouTubeチャンネル「ばかチューブっ！」に登場するウマ娘のゴールドシップは「ウマ娘宣伝担当(自称)」として、動画の中でさまざまな企画に挑戦する破天荒な一面を披露しています。その姿が競走馬のゴールドシップを彷彿させると競馬ファンの間で話題になり、人気者キャラとして多くの方に愛される存在になりました。今では『ウマ娘』ピス☆スピスピゴルシちゃん(週刊コロコロコミックで連載



公式YouTubeチャンネル「ばかチューブっ！」より

中)というギャグマンガの主人公にもなっています。

また2024年5月に公開された劇場版『ウマ娘 プリティーダービー 新時代の扉』は、ジャンルポケットが主人公の物語です。劇中のジャンルポケットの咆哮は、2001年の日本ダービーを思い起こさせると話題になりました。この映画をきっかけに競走馬ジャンルポケットのことを知ったという『ウマ娘』ファンも多く、同じく映画の中に登場したダンツフレームも、そのひたむきなキャラクターに魅了されて人気が急上昇しています。

さらに近年、競馬場や牧場を訪れる方の中には『ウマ娘』をきっかけに競馬を好きになったという若い人たちが目に見えて増えているそうです。

『ウマ娘』の世界で新たな物語が紡がれることで、往年の名馬たちの活躍が再び脚光を浴び、時を越えて新たなファンに愛されるきっかけになっているのです。

ブラストワンピースのほかに、競馬場を駆け抜けたシルク・ホースクラブ所属の競走馬たちがウマ娘として出走する日もきつとそう遠くはないでしょう。

これからの『ウマ娘』にどんな展開が待っているのか、さらにどんな未来が広がっていくのか。また、次はどんなウマ娘が姿を見せてくれるのか。

走り続ける彼女たちのゴールを想像しながら、楽しみに待ちたいと思います。

© Cygames, Inc.

© 2024 劇場版「ウマ娘 プリティーダービー 新時代の扉」製作委員会

© 久住太陽・杉浦理史 & Pita・伊藤隼之介 / 集英社・ウマ娘 シンデレラグレイ製作委員会 © Cygames, Inc.

特集② ゲーム『ウマ娘 プリティーダービー』とは？

『ウマ娘』という名前はよく聞かれるけど、一体どんなゲームなんだろう？と気になっている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこで、今回はゲームをまだ遊んだことがない方にむけて、ゲーム『ウマ娘プリティーダービー』の遊び方をご紹介します。

・手軽に遊べる！ ゲーム『ウマ娘』について

ゲーム『ウマ娘プリティーダービー』（以下、ウマ娘）は、プレイヤーがウマ娘の「トレー



ナー」となり、レース勝利を目指す育成シミュレーションゲームです。スマートフォンやPCから基本無料で始めることができます。

ゲームの舞台はウマ娘たちが通う「トレセン学園」。プレイヤーのあなたはトレセン学園所属のトレーナーとして、一人のウマ娘を3年間育成することになります。ウマ娘たちにはそれぞれ叶えたい夢があり、トレーナーと二人三脚で夢の実現を目指します。

主人公や結末が決まっているアニメや漫画とは異なり、育成するウマ娘を自分で選び、自分の選択で結末が変わっていくところが、ゲームの醍醐味のひとつでもあります。

史実では出走していないレースや、惜しくも勝利できなかったレース……ゲームの中では、あなただけの「if」を味わうこともできるんです。

ゲームを初めて起動すると、



「育成シナリオ」画面より

「プロローグ」が始まります。こちらをご覧いただければ『ウマ娘』の世界観がわかるようになっていきます。また実際にゲームを始める際には、「チュートリアル」でゲームの基本的な遊び方を学ぶことができますよ。

・「育成シナリオ」を 遊んでみよう！

実際に『ウマ娘』をプレイしてみよう！

まずは「育成シナリオ」を選びます。このシナリオに沿って、ウマ娘を育成していくことになります。

ゲーム内には複数の育成シナリオが用意されており、その中から一つを選んでゲームを進めます。どのシナリオでも、基本的にはトレーニングを繰り返しながらレースに出走して勝利を重ね、大目標となるレース勝利を目指すストーリーになっています。

このストーリーもとても感動

する物語なので、ぜひそちらも楽しんでください！

選んだ育成シナリオによって遊び方は異なりますが、まずはシンプルなシナリオ「新設！URAファイナルズ」から始めてみるのがおすすめです。

・勝利のカギは 「因子」と「サポカ」！

育成シナリオは、2024年11月時点で9本公開されています。今後も定期的に追加される予定のため、いつプレイしても飽きることなく、新たな遊び方を楽しむことができます。

次に、育成するウマ娘を選びます。育成ウマ娘は、アイテムを使って引ける「プリティーダービーガチャ」で入手することができます。

ウマ娘によって、距離適性や得意な走法、目標はさまざま。適性に合ったトレーニングやレースを選択しながら、彼女たちの夢を一緒に実現していきますよ！

最初は難しいかもしれませんが

が、2〜3回遊んでみれば仕組みがわかってくると思いますので、ストーリーを楽しみながら少しずつ進めてみてください。

ウマ娘を育成する際に重要なのが、「因子継承」と「サポートカード編成」です。どちらも育成の方向性を決めるのに重要な役割を果たします。

育成ウマ娘は他のウマ娘（継承ウマ娘）の「想い」を受け継ぐことで、能力を強化することができます。これを「因子継承」と呼びます。

「因子継承」は、競馬の血統にたとえられることもあります。

継承ウマ娘との相性が良いほど、能力や数値もより強くなります。相性の良し悪しは、ウマ娘同士の関係性も影響するといわれています。ぜひプロフィール



「因子継承」画面より



「サポートカード編成」画面より



サポートカード【SSR[Blast Off] プラストワンピース】

ルで得意なレースや交友関係などを見ながら、いろいろな継承を試してみてください。

また、相性には史実の血縁や勝ち鞍が関係していることもあるようです。そういった競馬との共通点を探してみるのも、楽しみ方のひとつかもしれません。

「サポートカード」はウマ娘の育成を手助けしてくれる役割があります。サポートカード

によって効果は異なり、それぞれのカードが持つスキルやサポート効果をもとに6枚のカードを編成します。今回登場した【SSR「Blast Off」】「プラストワンピース」は根性トレーニングを手助けしてくれるサポートカードです。編成したサポートカードのキャラクターが育成中に話しかけてくれることもありますよ。サポートカードの編成は慣れないうちは少し難しいかもしれ

ませんので、そういう場合は「おまかせ選択」を使いましょう！

・勝利を信じて……いざ、レースに出走です！

一定期間トレーニングしたウマ娘は、目標とするレースに出走します。ここで重要なのは、レース中はウマ娘を操作したり、手助けしたりすることはできないということです。

一度パドックに送りだしたら、トレーナーにできることは見守ることだけ。担当ウマ娘の勝利を信じて、手に汗握るレース展開を楽しみましょう！

・ウイニングライブで

最高の景色を味わいましょう！

ウマ娘はレースに勝利すると、ウイニングラン…ではなく「ウイニングライブ」のステージに立ちます。ウイニングライブは、勝利を手にしたウマ娘と、応援してきたファンが喜びを分

かち合う場所でもあります。

センターに立つのは、1着を手にしたウマ娘。自分の担当ウマ娘が大きな舞台の真ん中で堂々とパフォーマンスを披露する姿を見ると、きつとますます愛着がわいてくることでしょう。

特定のレースで勝利したときにしか見られないウイニングライブもありますので、ぜひ見逃さないようにしてください。

その他にも、定期的に開催されるストーリーイベントや、育成したウマ娘でチームを組んで、他のプレイヤーと勝敗を競うイベントなど、ここでは紹介しきれない催しもたくさん開かれています。



「レース」画面より



ます。『ウマ娘』はプレイすればするほど奥が深いゲームです。この機会にぜひゲームに触れて、『ウマ娘』の世界のゲートを開いてみてはいかがでしょう。

© Cygames, Inc.

特集③
ブラストワンピースで
広がる絆

サンスポ板津記者寄稿
来年2月24日には4周年を迎えるゲーム『ウマ娘プリティーダービー（以下、ウマ娘）』。今回、待望となるシルク・ホースクラブにゆかりのあるウマ娘が登場します。ブラストワンピースです。



満点の親近感が伝わってくる素敵な笑顔が印象的なビジュアルで、勝負服姿ももちろんシルクレーシングの「水色、赤玉靄、袖赤一本輪」を強調したデザイン。ツインテールをまとめた緑のヘアアクセサリーもおそらく、競走馬ブラストワンピースが現役時に装着していた緑のシャドーロールをイメージしたものではないでしょうか（大竹調教師も真っ先に気付きました）。

身長は174cmで、ウマ娘ではヒシアケボノ（180cm）に次ぐ2番目の高さ。体重は「どっかん！」と表記されていますが、この表現も現役時代のブラストを知っていれば納得がいきませぬ。

性格は人懐っこさ全開で天真爛漫。とにかくフレンドリーで、キャッチコピーも「堅い絆でヒトと繋がるウマ娘」となっています。

そのウマ娘のプロフィールを踏まえ、大竹調教師に現役時のブラストワンピースについて聞いてみたところ、「馬自身は食いしん坊キャラ。草を見るとそつちに行ってしまうし、食べ物につられやすい。人間が食べ物を持っているとすぐに寄ってきますから」と明かし、「ウマ娘の」ゲームだと、大食い選手権に出てきそう」とクスクスと笑っていました。

人懐っこさについては、競走馬のブラストは「自己主張が強く、自分のテリトリーに入ろうとすると攻撃しようとする面がありましたね。普段、馬場入りの時もうるさかったり…」とのことですが、「なぜか池添騎手が乗ると馬場入りも大人しかった。そこが絆なのですかね」と師は想像されていました。絆の部分では「馬と人」だけ

でなく、「人と人」も示しているのかもしれない。まずは、大竹師と池添騎手。2018年にブラストワンピースで有馬記念を勝ったわけですが、その前の年に「池添騎手に『一緒にGIを取れる気がする』とポロっと言ったことがあって」と大竹師。当時はブラストワンピースで…というわけではなかったようですが、師が鞍上に対して大きな信頼を抱いていたのは間違いないでしょう。

その有馬記念の最終追い切りでは、「わざと先行した馬に早めに仕掛けさせて追いつくのに苦労するシチュ



ーションを作ったのですが、それを池添騎手にあえて伝えていなかったのですよ。ジョッキーがどう対応するのかを見たかったの」と大竹師。調教は手応え劣勢で併入でしたが、鞍上に意図は伝わっていました。「やっぱりレースではロングスパートをほしかったですし、その通りの競馬をしてくださいました」。当時はエリザベス女王杯から朝日杯FSまで外国人騎手がGI6連勝中だったこともあり、より一層この勝利は目立ちました。

もうひとつの絆は、大竹師と橋口弘次郎元調教師。「絆というか人の縁。ブラストワンピースの母ツルマルワンピースは、橋口先生が管理された馬。その橋口先生のGI初勝利がうちの親父（大崎昭一元騎手）が乗ったレッツゴーターキンでしたから」とさまざまな思いを巡らせて

ていました。今では、引退競走の乗馬・馬術大会「RRC (Retired Racehorse Cup・引退競走馬杯)」でも活躍する姿を見せたブラストワンピース。こちらでも人馬の絆を存分に発揮していますね。

キャラクターデザインやプロフィール、ゲームのストーリーから、モチーフとなった競走馬をあれこれと想像できるのも『ウマ娘』の醍醐味。ブラストのことを最も知る会員の皆様なら、ゲームの中にある細かいこだわりを発見できる楽しさがあります。

© Cygames, Inc.



板津 雄志 Takashi Itazu
1979年岐阜県生まれ。サンケイスポーツ競馬記者。現在はフジテレビ「みんなのKEIBA」、『BSイレブン競馬中継』に不定期出演。好きな馬はスライプトゥジョウ、イクイノックス。熱心な「ウマ娘」ユーザーで、知らないところで美浦トレセンウマ娘部の会長に祭り上げられた。